



# 伊野-INO-

～やって未来こい！

いのの ENO暮らし2030～



発行：伊野コミュニティセンター

〒691-0072 出雲市野郷町 492-5  
Tel: (0853) 69-1526 Fax: (0853) 69-1530  
E-mail: ino-cc@local.city.izumo.shimane.jp

伊野コミュニティセンター  
ホームページ



伊野地区自治協会  
ホームページ



伊野地区自治協会  
Facebook



伊野地区情報発信部会  
Instagram



伊野コミュニティセンター  
ブログ



一伊野地区の人口ー  
(R8.2月未現在)

男性… 518人  
女性… 545人  
合計… 1,063人  
世帯数… 399世帯

## 13人の卒業生へ エールを！

# 卒業おめでとう！！

3/18



3月18日、伊野小学校にて卒業式が挙行されました。今年度の卒業生は13名。卒業生は在校生・教職員・保護者・地域の皆様に祝福され、6年間過ごした学び舎をあとにしました。4月からはいよいよ中学生。伊野小で過ごした6年間の思い出を胸に、周りの人への感謝の気持ちを忘れずに中学校でも頑張ってください。またコミセンにも寄ってくださいね。



## 伊野ベーション子ども×島大生×地区住民 ー巨大スゴロク大作戦！ー



参加者42名 2/11

今年度第3弾！島大生が考えてくれた今年度最後の伊野ベーションは、体育館でグループ対抗戦の巨大すごろくゲームです。サイコロの目の数だけ人間が駒になって進んでいき、ミニゲームマスに止まると全員でゲームをします。ゲームは「新聞じゃんけん」「みんなでジャンプ」「バナナ鬼ごっこ」などなど。新聞じゃんけんでは、どんどん小さくなる新聞からはみ出さないように初めて会う人同士でもギュッと近づいたり抱っこしたりしてチーム内で協力しあい乗り切っていました。島大生のマイクパフォーマンスも見事で、みんなを盛り上げてくれました！伊野ベーション初参加の子どもも、いつも参加している子どもも、見ている大人も、全員ずっと楽しそうでした。

最後に、出入口付近の雪かきに協力して下さったまちづくり部部員の皆さま、お世話になりました。ありがとうございました。

(コミセン自主企画事業 まちづくり部)



## いのっ子かけっこ教室

2/15 参加者30名

## ～伊藤蒼唯選手と走ろう！～



今年の東京箱根間往復駅伝でも大活躍をされた、日本のトップ学生ランナーでもある駒澤大学陸上部4年の伊藤蒼唯選手(出雲工業高校出身)をお招きして伊野小児童を対象に「かけっこ教室」を開催しました。

伊藤選手から速く走れるコツなどを楽しく教えてもらい、リレー対決やドッチボールなど伊藤選手との交流も深める事ができました。伊藤選手の走りを目の前で見た子どもたちには良い刺激になったようです。これを「きっかけ」に走る事が好きになってもらえればうれしいです。

(伊野アスリートクラブ部長 多久和秀政)



# やって未来こい!通信 続報

IGF

～伊野グリーンフォース(草刈隊)～

延べ186名  
(222時間) 出動  
農水部会

2023年8月の発足以来、多くの皆様にご利用いただきありがとうございます。現在23名の会員で活動しています。今年度は30件の依頼を承りました。特に高齢者世帯の方からの依頼が多く、大変喜ばれています。5月と7月には伊野小学校の環境整備にもボランティアで出動しました。これからも皆様の困りごとに寄り添っていきたいと思います。



一緒に活動して下さる新規隊員も募集します。入隊希望の方は事務局(西村 080-6307-9203)またはコミセンまでお知らせください。草刈りの依頼も同様に承ります。  
(IGF事務局 西村 邦男)

月1回 参加者延べ50名

## シニアのスマホ教室

教育部会

R7年度のスマホ教室は2ヶ月に1度、講師の山中のえんさんをお招きして開催しました。のえんさんの話を聞きに来る方、スマホの相談に来る方、色々な方にとっての貴重な時間になっているかと思います。最近ではAIが当たり前になり、AIチャットもお試しで触ってみました。知らないことを知っていくことは大変さもあり、楽しさもあります。色々なことに挑戦しながら来年度も楽しく開催したいと思います。お茶のみがてら気になることや聞いたことがありましたら、ご自由にご参加ください。



(代表 兼折 治加)



# 全国に4か所しかないFR隊 命をつなぐリレー こうやって命が救われた

救急車到着まで11～30分かかかる伊野地区。その間の救命活動を行う組織として伊野FR隊が発足して8年。コロナ禍の期間を除いて出動は8回。昨秋の事案では救命に成功し、出雲消防署から感謝状をいただきました。

## 伊野FR隊って何?

FはFirst(最初に) RはResponder(応答する人)でファーストレスポnderと言います。心肺停止事案の119番通報があると、消防署からFR隊員にメールが届きます。行ける人が現場に急行します。義務ではありません。あくまでボランティアです。現場ではAEDを使って胸骨圧迫(心臓マッサージ)をしたり、救急車の誘導をしたりします。命をつなぐリレーの第一走者です。2017年に隊員58名で発足しました。FR隊は全国に4か所しかありません。

## 命をつなぐリレーの第一走者は家族だった!

心マですぐに手足が筋肉痛 AEDが使えたからこそ

昨秋の事案では119番通報から救急車到着まで30分かかりましたが、救命に成功しました。成功の要因は①家族の中にAED使用や胸骨圧迫ができる人がいたこと②AEDが近くにあったこと③FR隊員がかけつけたこと、の3つです。

救命にあたった家族の方の感想を紹介します。

「あの時は、ただただ必死でした。目が悪いのに暗闇の中でメガネ無しで救急車を呼び、見えないので呼吸をしているかどうか分らず、とにかく心臓マッサージをとの指示をいただきましたが、数分が本当に長く、すぐに手足が筋肉痛になりました。AEDの指示をいただいてからは心マを義父に代わってもらい、走って取りに行きました。そのうち、FR隊の方が来られ、AEDで電気ショックを与えて、心マをくり返しました。救急車が来てからもまだ意識は戻っていませんでしたが、私の手から離れてからは一時、震えがとまりませんでした。なかなか無い経験ですが、小学校のAEDの講習も無駄ではなかったと思いました。」

## 教訓と課題

- ①命をつなぐリレーの第一走者は家族。家族や近所にAED使用や心マッサージができる人を増やす。そのために、各町内で救命講習会を毎年開催する。
- ②当地区で使えるAEDは、西地合集会所、伊野小学校、コミセン、伊野本陣、ゴルフ場(夕方まで)の5か所。心肺停止から10分以内にAEDが患者のもとに届くようにAEDを増設する。
- ③FR隊員が減っています。現在46名。隊員を増やす努力が求められます。

(伊野地区FR隊 多久和祥司)



感謝状贈呈式



救命法講習会

第8回

参加者21名

1/25

# 伊野ふるさとかるた大会



伊野ふるさとかるた大会を伊野児童館で開催しました。2名1組のチーム戦。今大会は、小学2年生～高校3年生までの6組12名の参加がありました。

小学校での練習の成果もあり、小学校低学年の子ども達も素早く反応をして、「はい!」と元気よく、絵札に飛び込んでいました。読み札のひっかけ問題にも騙されないように、しっかりとよく聞いて、絵札を取っていました。



優勝 ポテトチーム

優勝は、佐藤湊さん・佐藤旭さん兄弟の「ポテトチーム」でした。選手の皆さん、応援に来ていただいた皆さんのおかげで大会が大いに盛り上がりました。ありがとうございました。

(伊野地区青少年育成協議会)



## 親子で一緒に!

参加者19名

2/1

# ケーキをつくろう

昨年度より開催している「親子で一緒に!ケーキを作ろう」。好評につき、今年度も開催となりました。講師は、西灘町内の岩成尚子さん。

今年度は更に難易度を上げて、シフォンケーキとシフォンサンドに挑戦しました!シフォンサンドは焼きあがったシフォンケーキを冷まして切って、サンドイッチのようにクリームとフルーツをデコレーションしました。機械を使って泡立てる所など難しいところもありましたが、子ども達が頑張って作業してくれました。

出来上がったケーキはフワッと軽くて、とても美味しかったです。「またお家でも作ってみたい!」「家族にたべてもらいたい!」など、嬉しい感想が聞けました。

参加者の皆さま、ご参加ありがとうございました!  
(伊野地区青少年育成協議会)



## 地域でできる 人権のお話

# 人権研修会開催

36名参加

1/20

伊野地区のシニアスマホ教室の講師を務める山中のえんさんをお迎えし、「地域でできる人権のお話」と題して研修会を開催しました。

のえんさんは神奈川から松江に移住して来られました。当時、地元の方に受け入れてもらえず苦労されたことなど、実体験を元にお話しされ、皆自分事のように身近な問題として考えることができました。また「人権って何?」「最近楽しかったことは?」「地域でできることは?」など、隣の人と話し合う場面が何度もありました。大切なのは

「話をすること」。自分を知ってもらうためにはまず相手を受け入れ尊重すること、そして相手を思いやり、感謝することが大事です。そして一人一人が幸せに暮らすことが地域をよくすることにつながっていくのだと感じました。

今後もこのような研修会を開催してまいりますので皆様ぜひご参加ください。(伊野地区同和教育推進協議会)



## 国際交流と環境学習

2/18

参加者18名

# ~ストローを使って ピナメリをつくろう~



出雲市国際交流員のミラ ホヴィさんをお招きし、フィンランドの文化や歴史、生活について学びながら日本との違いを見つけ、環境問題について考える学習会を開催しました。

フィンランドの面積は日本の8割、人口は26分の1。日本に比べて人口密度は低いそうです。また、ペットボトルは蓋もラベルもつけたままで回収BOXに入れるとポイント還元があることなどミラさんはクイズを交えて楽しくわかりやすく紹介してくださいました。

学習の後はフィンランドの伝統飾りである「ピナメリ」作りに挑戦。本来麦わらで作るのですが、この日はストローを使ってチャレンジ。作業は単純ですが順番を間違えるとうまくいかないため一同大苦戦。あっという間の2時間でしたが国際交流と環境について考える楽しい時間となりました。

(環境推進協議会伊野支部)



## 第3回

参加者53名

3/8

# 伊野モルック大会開催



大人も子どもも楽しめるフィンランド発祥のスポーツ、モルック。昨年度に続き、第3回大会を開催しました。9チーム29名の選手、下は小学2年生～上は80代の方まで、幅広い

年代の方々にご参加いただきました。

50点ピッタリを目指すゲーム。作戦通り、ピッタリになったらワーッと大盛り上がり!また、50点を超えてしまうと、25点から再スタート。再スタートに、ワーッと落胆。どのコートからも笑い声が絶えず、賑やかに、楽しくゲームをしていました。

予選から決勝の合計6ゲームを制した、第3回モルック大会の優勝者は、モロッコチーム(あいきさん・わくさん・あさひさん・そうしさん)でした。参加して下さった皆さま、ありがとうございました。

コミセンスポーツ部会では、スポーツを通して、子どもから高齢者まで幅広い皆さまに楽しんでいただけるようなイベントを計画していきますので、来年度も皆さま是非ご参加ください。

(自主企画事業 スポーツ部)



優勝「モロッコチーム」

赤ちゃん紹介



まさき みなと  
**正木 湊** くん



令和8年1月27日生まれ  
父：原野さん、母：万里さん  
(大谷町内)

両親からのメッセージ  
たくましく育ててね！

手づくりみそを仕込む会

参加者15名  
手づくりみそで作る味噌汁の味は格別。毎日食べるものだから、おいしいものを食べたいですね。今年も食の会の皆様にご協力いただき、味噌づくりの会を開催。この会にはリピーターの方が多く、それもそのはず、一度食べたら皆さん虜になって市販のみそが食べられなくなるのです。味噌づくり最大の難所は大豆をやわらかく煮ること。いつも煮方が不十分でもう一度煮直すところから始めるのですが今年は参加者全員一発合格！これでもう出来たも同然。あとは機械でさらに潰し、麴と塩を混ぜ合わせたら完成です。半年後、食べるのが楽しみです。



女性災害サポート隊に学ぼう  
～防災研修会～

3/3  
参加者25名

伊野地区の災対本部役員及び女性の皆さんで、自主防災組織「女性災害サポート隊」のお話を聞きに高巣コミュニティセンターへ出かけました。始めに山崎センター長より地域の現状と実際に災害が発生し避難所開設された時の様子や地区で行っている防災訓練の取り組みなどについてお聞きしました。その後、災対本部長及び女性災害サポート隊の皆さんから組織立ち上げの経緯、活動内容、避難所開設時に苦労したこと、今後の課題などをお聞きしました。サポート隊の皆さんは自主的に研修を行い、防災への意識が非常に高く感心しました。また、地区やコミセンとの関係性が良好であると感じました。我々伊野地区でも参考になる部分が多々あり、今後の地区での取組に生かしていきたいです。また研修に合わせ、出雲市総合体育館「だんだんとまどアリーナ」の見学と昼食交流会を行い、参加者同士交流を図りながら今後の活動への意欲を高めることができました。(伊野地区災害対策本部)



向陽中調理実習支援ボランティア

このほど1年1組の生徒の皆さんの調理実習の支援に、伊野地区から6名の皆さんがボランティアとして参加されました。メニューは「サバの味噌煮」。7班に分かれて、まずレシピを片手に調理のビデオを鑑賞。その後ボランティアの皆さんが各班に1人ずつ付き、調理開始。事前にボランティアさんには「口は出しても手は出さな！」と申し合わせてあります。生徒はレシピとタイマーを使って、時にはボランティアさんに指導を仰ぎながら完成させていきました。全チーム完成したところでお待ちかねの試食。育ちざかりでどうしてもお肉料理に偏りがちですが、最後に「ぜひ家でも作ってお母さんを驚かせてください」と足立先生のお言葉でした。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。

1/28  
参加者6名



農業は未来を創る仕事だ！  
～伊野の未来を考えるセミナー～

3/22  
参加者70名

このほど2月18日に東京で行われたJA青年の主張全国大会に中四国代表として正木原野さん(大谷町内)が出演され、見事優秀賞を受賞されました。そこで農業から伊野の未来について考えてみよう、代議員会に合わせて正木さんやJAの皆さんをお招きし、セミナーを開催しました。正木さんの主張は「農業は一人ではできない、多くの人の支えや協力があってこそ。地域の皆さんと一緒に盛り上げていきたい。」というものでした。会場の皆さんからは「まちづくりも農業と同じ、一人ではできない。地域の人たちの協力があってこそ動き出す。」という意見があり、どちらも関わる人を増やし、みんなで一丸となって取り組んでいくことで明るい未来が待っていると参加者一同伊野の未来に希望と勇気を持つことができるセミナーとなりました。(伊野コミュニティセンター、伊野地区自治協会)



自衛消防訓練実施

1/26  
参加者10名

コミセンを利用しておられた住民の方と職員で火災を想定した避難訓練を実施し、平田消防署の方から消火器を使う際の注意点について教わりました。消火器を使う際は火元にあまり近づきすぎないこと、炎ではなく燃えている対象物に消火剤をかけること、狭い空間で消火器を使用すると消火剤で視界が悪くなることがあるため、必ず出口を背中にし、すぐに避難できるようにすることなどを教わりました。また、天井まで火の勢いが達しているときは初期消火では失敗する可能性が高いので、すぐに避難し、通報することなども教わりました。今後も訓練を繰り返し実施し、いざという時に行動できるよう備えていきます。(伊野コミュニティセンター)

